

**授業概要**

パンを焼く乾燥アジアとご飯を炊く湿潤アジアでは、自ずと生活様式が異なり、社会組織、ひいては家族の在り方まで違ってきます。かくして、地域性を色濃く反映しつつ、世界各地にさまざまな文化が醸成されてきたのです。そのような伝統文化は、近代以降、グローバル化の荒波に洗われて、劇的な変容を強いられています。しかし、それでもなお温存される「古層」があるとすれば、それこそがまさに「文化の本質」といえるでしょう。でも、地域研究に頼ってばかりでは、そのような「古層」はなかなかみえてきません。比較文化論の観点から、乾燥と湿潤の「境界」にこそ目を凝らすべきなのです。

本講義では、主としてアジアの諸文化を検討の俎上に載せ、乾燥と湿潤がせめぎ合う「境界」に着目しつつ、アジア文化論について考究したいと思えます。結果、受講生のみなさんの裡に確固たる「アジア観」が涵養されることを願ってやみません。

**授業計画**

第1回	導入①：アジアを俯瞰する眼
第2回	導入②：「アジア的」ということ
第3回	湿潤アジア①：乾燥と湿潤をまたぐ中国
第4回	湿潤アジア②：韓国は「洪水型」か？
第5回	湿潤アジア③：台湾アイデンティティ
第6回	湿潤アジア④：東南アジア大陸部
第7回	湿潤アジア⑤：東南アジア島嶼部
第8回	境界のアジア①：混沌のインドで考えたこと
第9回	境界のアジア②：黄金のベンガル
第10回	辺境のアジア：ネパールとスリランカ
第11回	宗教のアジア①：呪術師のいる風景
第12回	宗教のアジア②：世界宗教の受容について
第13回	中央アジア：草原を駆けるトゥルク
第14回	乾燥アジア①：イスラームの歴史
第15回	乾燥アジア②：「アラブの春」のこと
第16回	総括：理解度の確認

**到達目標**

- (1) アジア諸文化の歴史的・地理的概要を把握し、かつ、比較文化論の観点から、大胆な考察ができる。
- (2) 独自の「アジア観」を自らの裡に構築することで、めまぐるしく変動する国際社会における「自立と共生」の意味を模索できる。

**履修上の注意**

- (1) 予備知識は必要ありませんが、主体的・積極的な授業参加を希望します。
- (2) 欠席・遅刻・早退については、理由（就職活動、教育実習など）を鑑み、これを認めます。
- (3) 講義最終回までに、レポートを提出してもらいます。

**予習復習**

予習・復習の必要はありませんが、講義中に示した参考文献をできる限り参照してほしいと思えます。

**評価方法**

理解度の確認 80%、平常点評価 20%（出席状況、講義中の発言など）

**テキスト**

- (1) テキストは指定しません。関連資料については、適宜、配布します。
- (2) 以下に、参考図書として、講義担当者の著作を紹介します。  
齋藤正憲『境界の発見：土器とアジアとほんの少しの妄想と』、近代文藝社。  
齋藤正憲『ロクローを挽く女：アジアの片隅でジェンダーを想う』、雄山閣。